

第二部 懇談会 各グループからの報告

第二部では、参加者が10のグループに分かれ、第一部の活動事例を聞いての感想や意見を出していただきました。また、「地域でともに生きるを考える」というテーマについて、それぞれの立場からご発言いただき、意見交換をしていただきました。その時の報告内容を紹介いたします。

【活動事例の感想】

- ・ラジオ体操を通じて多世代交流すること、またその活動を継続していることは素晴らしい。
- ・障害者を閉じこませず、地域に出て行くことの大切さはとても大事だと思う。
- ・継続することで仲間作り、顔が見える関係ができるのだと思った。人間一人では生きていけないが、家族を頼れないこともあるので、大事なのは「おたがいさま」の精神で何でもささえあっていかなければならないと思う。
- ・他の地域でも夏休みのラジオ体操は行っているが、毎日となると難しい。皆さんが集まってくることも含めてすごいことだと思う。
- ・事例を聞いて、活動されている人は大変お若く見えるので驚いた。
- ・障害者が人前に出で行くことは勇気がいるのではないかという話があったが、以前に比べると電車や、街中で障害のある方を見かける機会は増えたと思う。
- ・長寿の秘訣は、自分の欲望のみを満足させてはいけません。人のために何かできる喜びを感じる事が一番だと教えていただいた。本日はいろいろな立場の人と話ができ良かった。
- ・事例を紹介された二人とも30年以上にわたり活動を続けていることはすごいことだと思う。

地域の中でコミュニケーションを取ることが大事である。

- ・ラジオ体操の話聞いて、元気な高齢者が多くいるようで羨ましい。継続することが力となり、健康寿命を生きているように感じた。

【課題】

- ・町会でイベントを開催しても人が集まらない。加入率が低くなってきているため役員選びにも困っている。役員が高齢化しており、次の世代が育たない。仕方なく役員をくじ引きで決めているところもある。
- ・民生委員として、地域の高齢者に問題が生じた場合には地域包括支援センターに相談しているが、弱みを見せたくないのか関わりを拒否される方もいて関わるのに苦労することがある。
- ・町会の加入率の低下は、町会活動にメリットが無いと感じられているのではないかと

- ・民生委員や町会は行政から個人情報なかなかもらえない。情報が少ないことで苦労することもある。
- ・ある団地では、高齢者同士のささえあいとなっており、今後の継続が難しくなっている。
- ・民生委員は児童委員も兼ねており、子供を見守る役割もある。高齢者の見守りだけではない。
- ・コミュニティ交通についてはどうしていくのか？
- ・大規模団地の住民と古くから住んでいる住民とでは町会へのアプローチの方法がまったく違ってくると思う。お互いに理解を深めていかなければならない。
- ・知的障害については、分からないことが多い。地域で理解を深めていく必要があるのではないか？

【意見】

- ・町会のイベントでは参加を促すよう積極的に声かけをする。子どもを巻き込んでその親の世代も引っ張り出すことなどを行っている。若い世代との交流がなかなか進まないが、自然に地域に溶け込めるような空気作りがとても大切だと思う。
- ・活動する会が存続するには、世話好きの方がいないとまとまっていけない。
- ・町会の中に福祉コミュニティを設置し、専門性・継続性を持たせて地域の見守りを実施しているところがある。
- ・昼パトルール（毎日）、夜パトルール（週1日）の活動を実施している町会がある。
- ・ボランティア活動に若い人たちが参加していないという意見が出たが、若い人とはどのような人のことを指しているのか？それぞれの生活があるので、地域のボランティアまでなかなか至らない。どのように広げれば良いのか？まずは、小さい輪の中で活動を始めるのが良いのではないか。
- ・「地域でともに生きる」ことについて様々な話が出たが、黙って寄り添うことが大事な時もある。
- ・単身高齢者の方が自分の無事を知らせるために、自宅のどこかに目印を出している地域がある。
- ・岡上の町会では先進的な取組みを実施していると聞いた。単身高齢者の話し相手、電球交換などのちょっとしたお手伝い。小学生が災害時に地域の高齢者を連れてくるということもあったらしい。
- ・熊本地震の話では、マニュアルを整備していても、被災するとマニュアルがどこにあるのか分からなくなることがあったので、情報を集めるのに「スマホ」が役に立ったということだった。スマホを活用できるようにしておく必要がある。充電については、ソーラー発電を行っているところで充電できるらしい。
- ・地域活動は、楽しくなければ続けられない。まずは、「笑う」ことから始めたい。
- ・障害者と交流できる機会をもっと増やしたい。子供同士だと障害に対する壁はそれほど高

くない。大人の方が障害者に対して偏見を持っていることが多いのではないかと？障害の有無にかかわらず、多世代の方が気軽に喫茶でも飲みながら話ができるカフェのような場所がほしい。

・老人いこいの家とこども文化センターが併設されているところでは、もっと積極的に交流できる場にしてほしい。

・活動のポイントは「顔見知りになる」こと、「出会いの機会を作る」こと。「生きがいを持って取り組める」ことが大切。

・ともに生きる仕組みづくりは「つなぐ」こと。地域でリーダーをどのように育てていくのかがカギになる。自治会役員は、役割が多岐に渡っていて時間が取れない。また、連絡も取れないことが多い。

・「つながりづくり」に学校を活用したらどうか？学校行事の防犯パトロール、図書ボランティアなど様々な活動がある。

・いきなり大きなことを始めるのではなく、小さなことでも行っていったほうが良い。小さなことをきっかけにつながりを作る方法を考えていくのが大事。

・ラジオ体操を実施している他の地域の方から、体操後に交流ができるためとても良いとの話があった。しかし、日曜日の朝くらいは音を出すことをやめてほしいという声があるかもしれない。地域に住む方がお互い歩み寄ることが大切だと思う。

・障害者を町で良く見かけるようになったと思う。30年前に比べたら安心、安全な町になってきている。

・横のつながりが見えない。ここに参加している方はみなさんそれぞれ頑張っている。本日のような会議も含めて、点が線や面になると良い。本日参加している方だけなら麻生区を支えていくのは容易かもしれないが、このような会議に参加する時間を割けない人たちについても、地道にボトムアップをしていくことが重要になる。

